

編集長インタビュー

Interview

(医) 社団育生会久野病院

成岡: 本日はお忙しいところどうもありがとうございます。早速ですが、(医)社団育生会久野病院の概要を教えてくださいませんか。

久野: まず、本院は病床数199床で、急性期と慢性期の両方の患者さまを対象とした医療のサービスを提供しています。病棟は4つあり、内科・外科・



久野病院

整形外科・消化器科などが主要な診療科目です。3階は、医療療養型の病棟です。外来は1階に受付、待合室、薬局、診察室などがあり、診療科目としては上記以外に小児科・神経科・X線科・肛門科・皮膚科・リハビリテーション科があります。

成岡: 少し北側に第2久野病院がありますね。

久野: そうです。本院は昭和40年に開設しました。その後、高齢者の医療サービスを中心に提供する施設として、100mくらい北側に第2久野病院を開設しました。昭和53年のことです。こちらは、介護療養型医療施設であり、217床の療養型ベッドがあります。

成岡: その他どのような施設がありますか?

久野: 第2久野病院に隣接して、「介護支援センター」と伏見区に訪問看護ステーション「ふかくさ」があります。介護保険の開始と共に、地域での在宅介護サービスの拠点にしています。

成岡: 非常に多岐にわたっていますね。職員の方は何名くらいでしょうか?

久野: ドクターや看護・介護従事者の職員を中心に約450名の職員が働いています。

成岡: 450人ですか、相当な中堅企業と同じですね。

久野: 医療サービスの提供には、さまざまな職種の専門家が連携して患者さまの社会復帰を目的に、医療サービスに従事する必要があります。そういう意味では、現代社会での究極の労働集約型サービス業かもしれません。

成岡: 理事長の信念が「理念」や「方針」に表れていますね。

久野: そうです。3年前にこれらを検討し、発表し、職員に徹底するようにしています。「理念」は「和を原点として、心のかう高度な医療と介護を、誇りと真心で実践し、地域から信頼される病院であること」です。それを実現するために「基本方針」として、「高度医療の充実、救急医療の対応、高齢化社会への対応、安全な医療の確立、地域の医療・社会との連携、納得診療の実践」の6つを挙げて、この方針を徹底させています。

成岡: なるほど、素晴らしいですね。しかし、現実には、なかなか多忙な現場での理念の浸透は容易なことではないと思いますが。

久野: そうですね、とにかく、何かある都度、徹底するように繰り返し、繰り返し、基本の大切さを訴えています。

成岡: 今回の医療保険制度の改正は非常に重たい内容になりましたが…

久野: 正直、こんな厳しい内容になると

は、想像以上でした。診療報酬の改訂でも、厚生労働省の試算を、この病院にあてはめてシミュレーションしてみますと、厚生労働省の発表以上の診療報酬のマイナスが(左)理事長・久野成人氏、(右)事務長・見野和子氏予想され、非常に厳しい経営環境になります。また、介護保険の財源の問題によって、介護療養型医療施設から社会福祉施設への転換促進がさらに進められることになりました。

成岡: ということは、いわゆる「社会的入院を認めない」と。

久野: そうですね、そういう患者さんは社会福祉施設へ誘導するような内容になっています。長期の社会的入院を医療機関でカバーすることは不可能になりますね。

成岡: 当然業収入の面でも影響が出ますね。

久野: 厚生労働省の考え方は、高度医療を病院で、地域医療を開業医や診療所で、高齢者介護・医療は社会福祉施設で、というのが基本だと思います。当病院などは、病床数から考えて、今後の方向をどうするかが問われています。

成岡: そういふ厳しい環境のなかで、昨年、病院機能評価を受けられましたね。

久野: 昨年の4月に審査を受けました。文書の作成や、規則の制定、書類の管理体制の変更、設備関係のチェックなどを通じて、本当に患者さまのために医療を提供するために、外部の第三者からの評価を受けたこととしては、当初、職員の中には、これは大変だという感じも強かったのですが、参画してくれたスタッフのモチベーションは非常に高く、無事に審査を終えました。これも理念の実現の第一歩だと思っています。

成岡: 成岡も手伝いさせていたと思いますが、人事制度、評価制度なども難しい課題ですね。

久野: 病院と言う医療機関は、専門職能の集団です。また、一定の有資格者をキープしないといけないという法的な仕組みもあります。また、勤務時間など不規則なところもあり、一般的には介護職の方などは、勤務が短い傾向にあります。給与体系、評価制度、退職金制度、どれも動いても、医療サービスのレベルに直結する重大な経営課題です。

成岡: 「質の高い医療サービスの提供」と「医療機関の安定経営」をどうバランスさせるかは難しい問題ですね。

久野: そうです。一般企業なら、売上や収益、利益、効率化などのキーワードが適応できますが、医療サービスには、そのままいう概念が持ち込めません。ある意味で、トレードオフの関係にあり、そのバランスをどう取るかが重要な課題です。それと、今後の少子高齢化にどう対応していくのが大切です。第2久野病院や介護支援センターもそういう意味で開設しましたが、規制や制度がこういろいろ変わると、ある意味怖くて、思いきった投資や方向転換が難しい状況ではありますが、地域医療介護の発展に努めることが我々の任務と考え実践していただけます。

成岡: 聞けば聞くほど医療機関の経営というのは難しいという事が実感できました。本日はありがとうございました。今後のご健闘をお祈りしています。

<法人データ>

久野病院
所在地: 京都市東山区本町22丁目500番地
電話: 075(541)3136
第2久野病院
所在地: 京都市東山区本町21丁目459番地
電話: 075(551)3522
URL: <http://www.kuno-hospital.or.jp/>



介護支援センター